

ハチ マル ニイ マル

# 元気県ぐんまは8020から

生涯を通じた歯科保健

あなたは知ってる?



群馬県・<sup>社団法人</sup>群馬県歯科医師会

群馬県保健福祉部保健予防課 群馬県 大平町 1-1-1 TEL 027-226-2606 FAX 027-223-7950  
群馬県歯科医師会 群馬県前橋市大友町1-5-17 TEL 027-252-0391 FAX 027-253-6407

# ごあいさつ

歯と口の健康は、おいしく物を食べ、会話を楽しむことや、若々しい笑顔で、積極的な生活を送る上でも不可欠です。こうした一人ひとりの健康の実現のためには、自分自身の健康な歯を1本でも多く持ちつづけることが条件にもなります。

人生80年を達成しても、健康で生活できなければ意味がありません。80歳で20本以上の健康な歯を保っている高齢者は、歯を多く失った方に比べ健康で質の高い生活を送っていることが明らかになりました。

しかし、平成12年度に調査した群馬県成人歯科保健実態調査の結果では、80歳で自分の歯を20本以上保有している方は21%と少なく、80歳の平均の残った歯の数は12本と目標よりもかなり低いのが現状です。

また、永久歯がはえそろう時期の12歳児で7割以上がむし歯を持っており、1人平均で約3本のむし歯を持っています。

こうした現状を改善するには、正しい知識をもって、一人ひとりが生活習慣を見直し、定期的なかかりつけ歯科医による管理を受けることが大切です。

本書は、歯を失う2大原因のむし歯と歯周病についてみなさんが正しい知識を得る手段として、また、自ら学び、健康な生活を送る助けとなるよう作成いたしました。

本書が県内各地での歯科疾患予防の実践に役立てられ、県民の歯科疾患の予防と健康増進につながれば幸いです。

## 目次

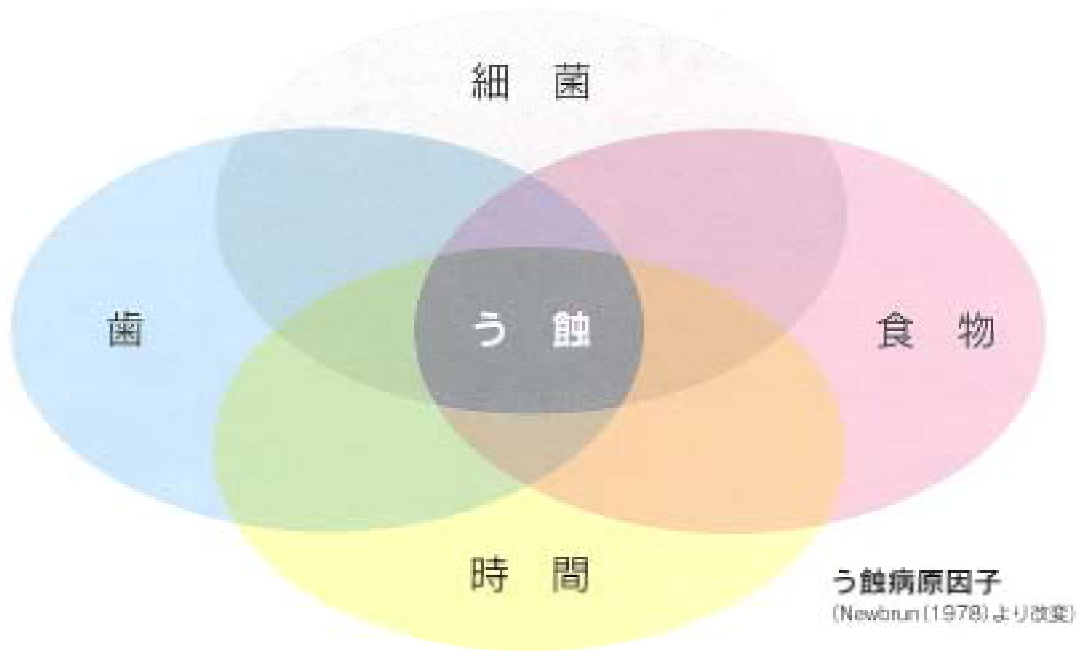
### むし歯の知識

むし歯はどうしてできるの？	2
むし歯の原因と予防	3
むし歯予防のポイント	4
フッ素利用とQ&A	
知っていますか？ むし歯予防におけるフッ素の効果	6
フッ素を利用するにはどんな方法があるの？	7
フッ素によるむし歯予防効果	8
Q&A	9

### 歯周病予防の知識

歯周病にかかりやすい人とは？	11
歯周病、全身にも悪影響	12
歯周病の自覚症状（セルフチェック）	13
歯周病治療はチームワーク	14
元気県ぐんま21	15
あなたはどれを選びますか？	18

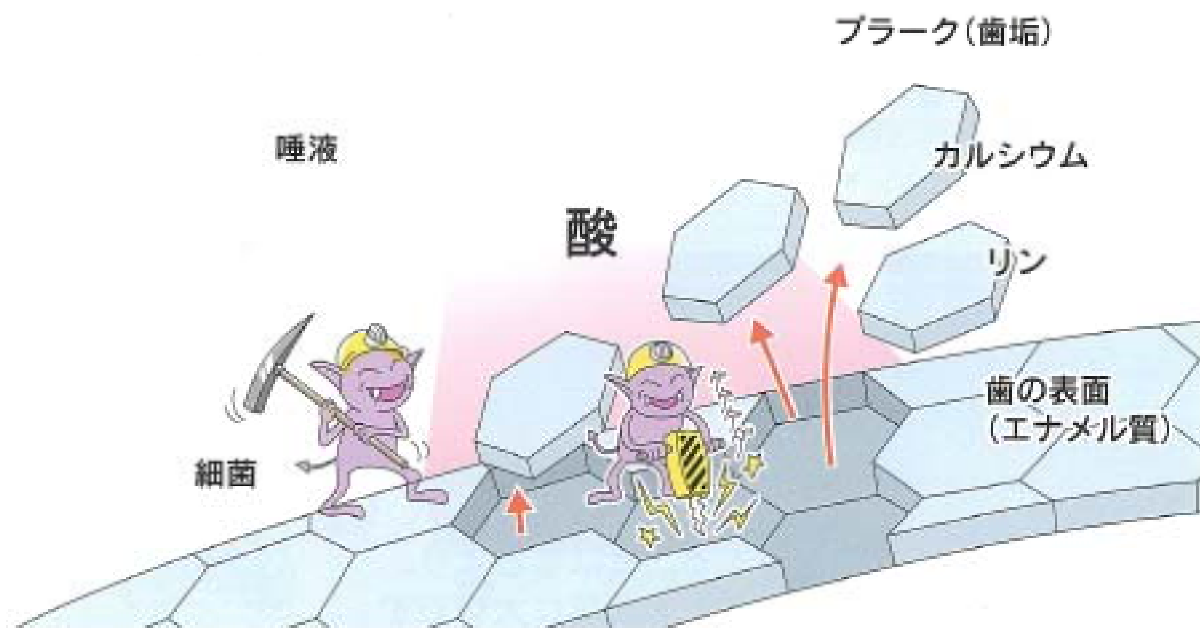
# むし歯はどうしてできるの？



むし歯は、口腔内細菌、歯、食物、時間の4つの因子が、複雑にからみ合って起こる感染症です。

## むし歯のはじまり・・・それは **脱灰 (だっかい)** といいます

歯垢（プラーク）内の細菌（ミュータンス菌）が、糖質特に砂糖を分解して作り出す酸や食品中に含まれる酸によって、歯の表面（エナメル質）のカルシウムやリン酸が唾液中に溶け出す状態を脱灰といいます。



# むし歯の原因と予防



## 1. 口腔内細菌(むし歯菌)を除去する

ブラーク除去  
(ブラークコントロール)

ブラッシング→(セルフコントロール)  
…歯ブラシ、歯間ブラシ、デンタルフロスの使用

専門的口腔清掃→PMTC(プロフェッショナルコントロール)  
…歯科医院で定期的に行う



## 2. 糖質(特に砂糖)を適正に摂取する

適切な間食

おやつの工夫  
…砂糖(ショ糖)摂取の制限

代用甘味料(パラチノース、キシリトールなど)の使用  
…歯に信頼マーク、特定保健用食品



トゥースフレンドリー協会



厚生労働省許可  
特定保健用食品

## 3. 3因子(むし歯菌、歯、食物)の接触時間のコントロール

### 1) 砂糖から作られる酸と歯との接触時間をできる限り短くする

- 唾液の分泌を促進させる…よくかんで食べる
- 食後、就寝前のブラッシング

### 2) 摂食の工夫

- 間食摂取頻度、方法の工夫
- 生活習慣の改善…定時の食事、ダラダラ食いを避ける



## 4. 歯の質を強くする

### 1) 酸に溶けにくい歯

- バランスのとれた食生活
- フッ素の利用

### 2) 再石灰化の促進

#### →フッ素の利用

歯みがきと食生活に注意することはもとより、  
フッ素を上手に利用することも非常に大切です



# むし歯予防のポイント

## 糖分の摂取回数を控える —— シュガーコントロール

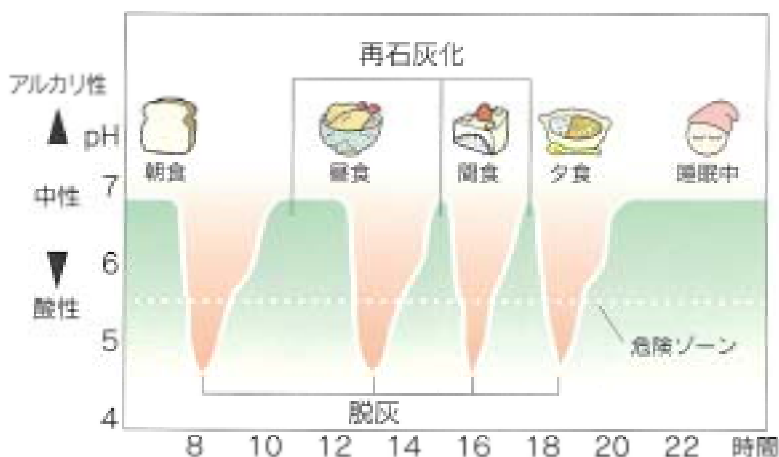
糖分をじょうずにコントロールすることで、むし歯菌の養分になるものを少なくし、菌の繁殖をおさえることができます。

代表的な糖分には、食べ物や飲み物に含まれる砂糖(ショ糖)や、果物に含まれる果糖やブドウ糖、牛乳に含まれる乳糖などがあります。糖分とくに砂糖(ショ糖)の含まれる食べ物や飲み物をとる回数が少なければ、よりむし歯になりにくくなります。

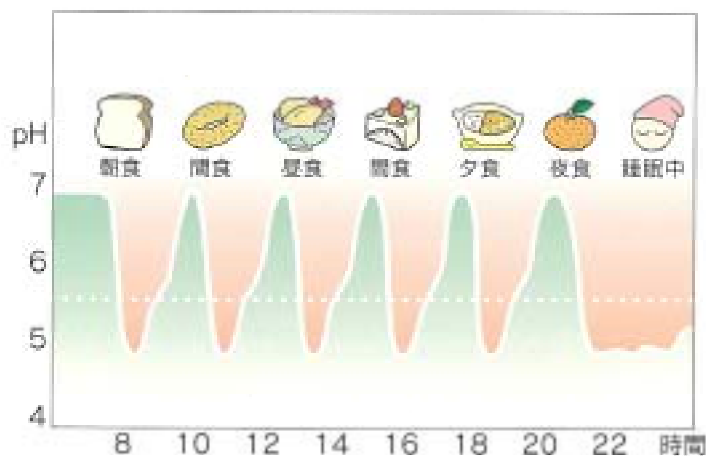
とくに注意したいのは、3度の食事以外にとる間食の回数です。もともと間食には、3度の食事では不足する栄養分を補う意味があります。そこで、間食の内容には、甘いものだけでなく栄養面も考えて、ひと工夫したいものです。

飲食をすると、プラーク中のpH(ペーハー)は酸性に傾き脱灰がはじまりますが、しばらくすると唾液の働きにより再石灰化(歯の溶けた部分に再びカルシウムやリンが沈着して修復されること)されます。図Bのように間食の多い食生活では脱灰の時間が長く、再石灰化の時間が短くなり、むし歯の危険性が増大します。寝る前の飲食は最も危険です。寝ている間は口の中の唾液の流れが弱いので、再石灰化が不十分となり脱灰が続くためです。

(図A) 食事、間食によるプラークpHの変動



(図B) 間食回数が多い場合



ワンポイント  
レッスン

歯みがきだけではとれない  
歯と歯の間のよごれ



糸ようじ (デンタルフロス)



歯間ブラシ

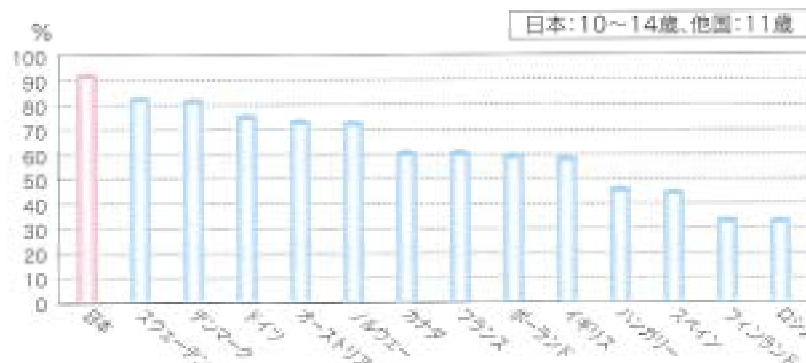
## 日本人の歯磨きの実施状況



厚生労働省歯科疾患実態調査報告

1987年以降から、「1日2回磨く」が「1回磨く」を追い越し、「3回磨く」も年々増加しつつあることから、日本人はよく歯を磨いていると言える。

## 1日に1回以上歯磨きをする子供の割合の国際比較



(同本、1999)

このグラフからも、他の国と比較してよく歯を磨く人種であることがわかる。

私たちがむし歯を予防するためにしなければならないことは、**歯質強化**すなわち**フッ素の利用**です。

## 12歳児のDMF歯数と砂糖消費量の関係



(荒川、2000)

他の国と比較して、年間の砂糖消費量が非常に少ないにもかかわらず、DMF歯数（一人平均むし歯経験歯数）は多い。

# 知っていますか？むし歯予防におけるフッ素の効果

## —フッ素は歯質を強くする—

### フッ素が歯の表面につくと

1. 歯のエナメル質を酸に溶けにくくする

ハイドロキシアパタイト ……(普通のエナメル質)

↓ フッ素による変化

フルオロアパタイト ……(フッ素が作用したエナメル質は、酸に強い)

2. フッ素は酸をつくる細菌（むし歯菌）の力を抑える

3. フッ素は再石灰化を助ける



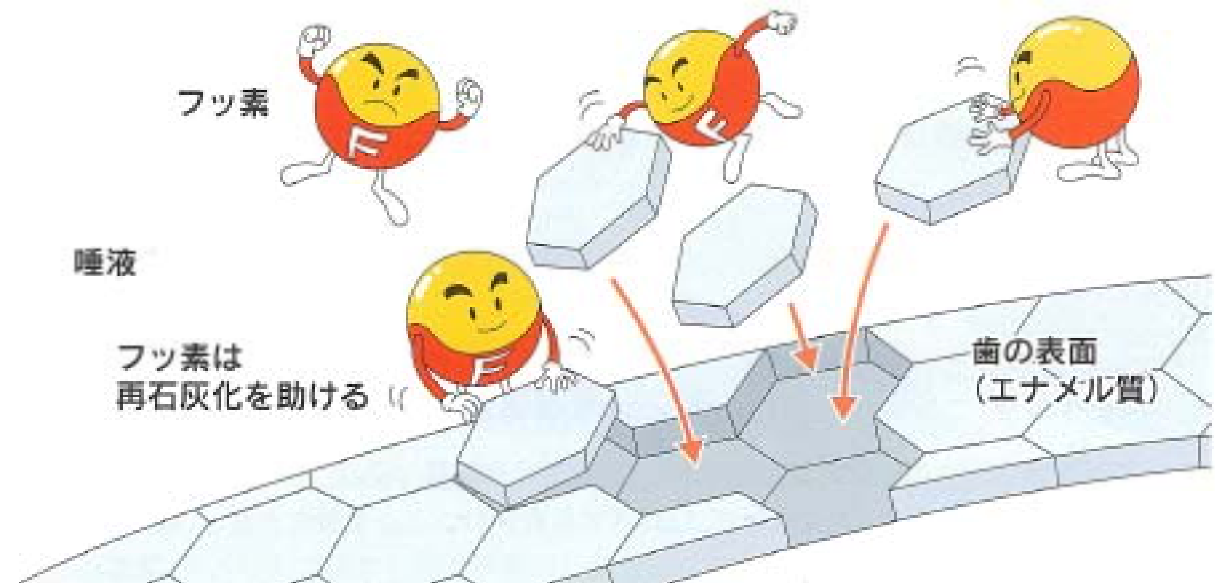
脱灰がおきている歯



脱灰部分が再石灰化された歯



ライオン（株）より



★フッ素が唾液中に存在することで、再石灰化が促進されます

# フッ素を利用するにはどんな方法があるの？

## 局所応用

### ① フッ素塗布

歯科医師・歯科衛生士が、歯に直接フッ素を塗る方法です。



フッ素塗布

### ② フッ素洗口

フッ素洗口液で口をブクブクうがいする方法で、幼稚園や小学校など集団で実施されていますが、最近家庭での利用も増えてきています。

フッ素うがい



### ③ フッ化物配合歯磨剤

多くの歯みがき剤にはフッ素が入っています。

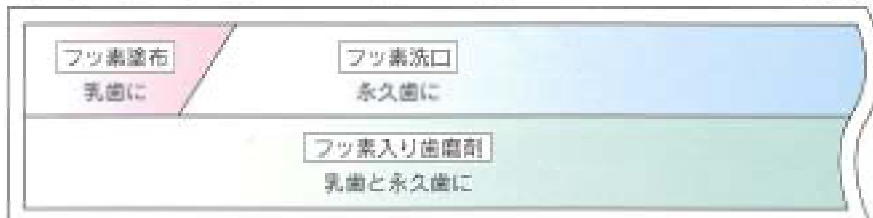


フッ素歯みがき

### ④ その他フッ素入リスプレーなどもあります



年齢 0 2 4 6 12 15 ... 80(才)



ひとつの方法だけでなく、いくつかの方法をいっしょに行えばより効果が増し、むし歯になりにくい強い歯になります。生涯を通じたフッ素利用をお勧めします。

#### 効果的な使い方

- ① 量を守る (先の1/2)
- ② 過度のうがいをしない
- ③ 使用後の飲食を控える



## 全身応用

### ① フルオリデーション (上水道フッ素濃度調整法)

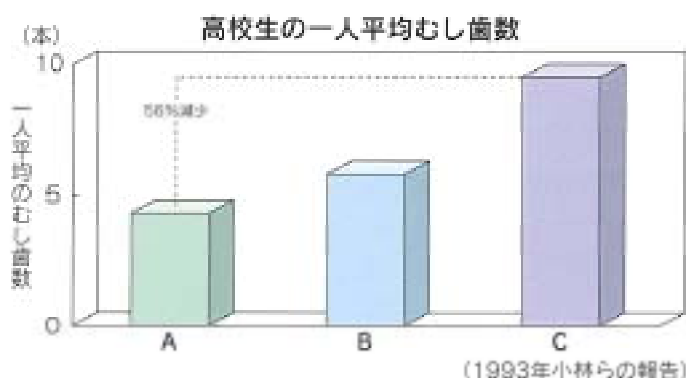
### ② フッ素入り食塩

### ③ フッ化物錠剤



# フッ素によるむし歯予防効果

小さなときからフッ素を利用していると高校生になってはっきりと差がでできます。



A群: 保育園、幼稚園から中学校まで11年間フッ素洗口を続けている。

B群: 小学校から6~9年間、フッ素洗口を続けている。

C群: フッ素洗口をしたことがない。

★最も長期間、フッ素洗口を続けたA群の一人平均むし歯数はC群の約半分です。

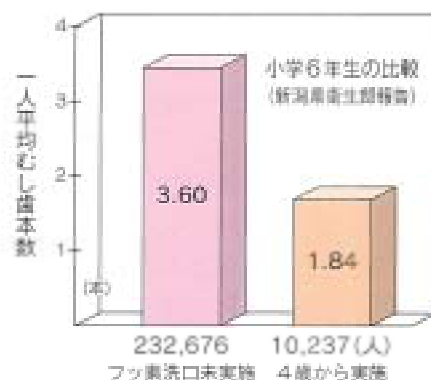
利用期間が長いほど効果があります。

★フッ素の予防効果は、おとなになっても続くのです。

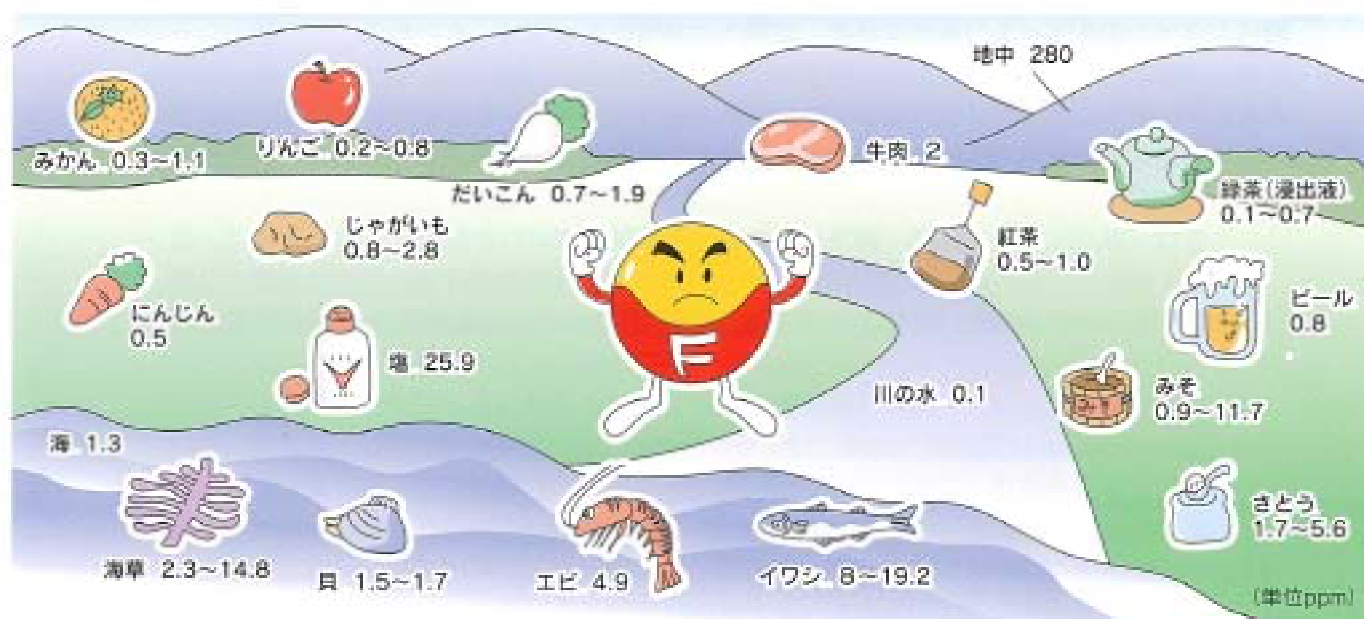
## フッ素は本当に効くの？

新潟県では20年以上のフッ素洗口の歴史があり、県下の小学校の約半数の児童が行っています。

右のグラフは、新潟県内の小学6年生約24万人の調査によると、4歳からフッ素洗口を実施した児童のむし歯の本数は未実施児童の半分でした。



## フッ素は自然に広くある



フッ素は自然の中にある元素です。フッ素はあらゆる食べ物、飲み物や海や川の水にも含まれています。でも、これだけではむし歯を予防することはできません。私たちは食べ物、飲み物で、フッ素を1日1mg位とっています。アメリカではむし歯の予防のためには1日3mgが必要とされています。

フッ素はどこにでもある自然環境物質です。

# Q & A

## Q1：フッ素ってなんですか？

A1：フッ素は自然界に広く分布し、土壌、空気、水をはじめあらゆる物質に含まれている天然元素です。日本人の場合、主に魚介類や海草、野菜、お茶などから1日1mgくらい体内に摂取しています。フッ素は歯牙の発育期に摂取（全身応用）したり、萌出後の歯に局所的応用することでむし歯を予防します。

## Q2：フッ素は摂りすぎても大丈夫ですか？

A2：1度に大量に摂取してしまったり、過度の量を毎日摂取すると中毒症状が起きることがあります（うがい液を誤って大量に飲んでしまう、練り歯みがきを大量に食べてしまうなど）。このような誤りをしなければ、定期的にフッ化物塗布をしてもらい、毎日フッ化物による洗口をし、フッ化物入り歯みがき剤を毎日使っても大丈夫です。

## Q3：フッ素塗布で歯が黄色くなったり、黒く変色すると聞いたことがありますか？

A3：フッ素塗布によって歯が黄色くなったり、黒く変色することはありません。歯が黄色や褐色になるのは単なる汚れや飲食物による着色が多いようです。また、フッ素を塗って黒く変色するのは、サホライド（フッ化ジアンミン銀）というむし歯の進行を抑制する薬剤を塗布したためと考えられます。黒く変色するのは、この薬剤に含まれる銀が、むし歯になった部分や歯の表面の微少な凹凸部に作用してタンパク質と結合するためです。しばしば市町村保健所・歯科医院などでは、初期のむし歯にサホライド（フッ化ジアンミン銀）を塗布し、その後数時間たって塗布した面を黒変させるためにフッ素で黒くなると誤解されることがあるのです。

## Q4：フッ素洗口液を誤って飲み込んでも大丈夫ですか？

A4：フッ素洗口のうち、最もフッ素濃度の高い週1回法（フッ素濃度900ppm）について考えてみると、洗口液10ml全量を誤って飲み込んだ場合、9mg（900 $\mu$ g/ml $\times$ 10ml）のフッ素を体内に摂取したことになります。この場合、軽度な中毒による不快症状（悪心、嘔吐、口渇、発汗などで主に胃の刺激症状）が発現するフッ素量は、体重1kgあたり2mgとされているので、洗口可能な4歳男児の平均体重が我が国ではおよそ16.4kg（平成11年国民栄養調査）であることから、4歳男児の急性中毒量は32.8mg（2mg/kg $\times$ 16.4kg）となり、1回量を誤って飲んでも問題はありません。

## Q5：斑状歯（はんじょうし）って何ですか？

A5：歯が白く濁る症状（エナメル質形成不全）をすべて含めて斑状歯と呼びます。斑状歯になる原因は、現在知られているものだけでも60種類以上あると言われています。このため原因により分類する必要があります。フッ素が原因の場合を「歯のフッ素症」と言い、その他の原因の場合を「エナメル白斑」と言います。エナメル白斑は通常の学校健診でもよく見られます。そして、歯のフッ素症については、飲み水の中の過剰のフッ素が原因で、顎の中で歯が形作られる時に障害されます。このためフッ素塗布・フッ素洗口・フッ化物配合歯磨剤など、出来上がった歯に用いるフッ素の使い方では、量や使い方そして対象年齢からみて斑状歯にはなりません。

**Q6：妊婦中の母親がフッ素を摂取しても胎児に悪影響はありませんか？また、授乳中の母親に対してはどうでしょうか？**

A6：水道水フッ素添加がなされている地域でも、胎児に対する悪影響は報告されていません。また、死産や新生児の死亡率が増えるという報告もありません。仮に母親が誤って大量のフッ素を飲み込んだとしても、血液や胎盤を経由するうちに胎児に移行するフッ素はごく少量になってしまいます。その証拠に胎児期に歯の形成が行われている乳歯にはフッ素を原因とする斑状歯（歯のフッ素症）がほとんどみられません。永久歯の形成は生後まもなく始まりますから、赤ちゃんにとって母乳中のフッ素も重要です。しかし、母親が摂取するフッ素のほんの僅かしか母乳に移行しませんから、乳児に害を及ぼすことはありません。むしろ母乳哺育中の乳児は、フッ素が不足しがちであるといえます。

**Q7：フッ素は遺伝的な危険性がありますか？**

A7：至適濃度のフッ素が、染色体（人の遺伝子）の構造を変えることはありません。動物実験においても至適なフッ素濃度の100倍も高いフッ素レベルですら、骨髄や精細胞の染色体異常を認めていません。つまり、フッ素が遺伝的障害を与えることはありません。そして、広範な疫学調査によってもフッ素と遺伝子疾患を関係づける報告は否定されています。

**Q8：フッ素はガンの原因になると聞きましたが？**

A8：過去に「発ガン性がある」という報告が出されたことがあります。その後、追認の調査によりますと、フッ素が発ガン性を示す客観性や再現性のある結果はありませんでした。ガンの発生とフッ素の応用とは無関係であることが明らかになっています。

**Q9：水道水のフッ素添加は、エイズの原因になるのでしょうか？**

A9：結論から言ってフッ素とエイズとは全く関係ありません。エイズは、同性間あるいは異性間での性行為、血液・血液製剤での感染、薬物使用者によって汚染された注射器の共用、エイズに感染した母親から胎児や新生児への周産期感染といった感染経路が確認されています。また、フッ素がエイズの発症や感染の原因あるいは補助因子となるという主張は、科学的に立証されておらず、疫学的な研究に基づけばフッ素とエイズの関係性を根拠づけるものではありません。

**Q10：フッ素利用に対する専門家の意見はありますか？**

A10：WHO（世界保健機構）や世界の国々をはじめ厚生労働省、日本歯科医師会、日本口腔衛生学会、日本歯科医学会等々の専門の団体で広くフッ素の応用を推奨しています。そして、近年フッ素の利用を推奨する新たな見解も発表されています。フッ素とむし歯予防について研究する日本口腔衛生学会では、過去に推奨見解を発表しました。

『う蝕予防プログラムのためのフッ化物応用に関する見解』

歯の健康のために、フッ化物応用を推奨する

- (1) フッ素は、歯の健康のために必要であり、歯の形成期、および萌出後、さらに生涯を通じて有効である。
- (2) 歯科保健管理下で行われるフッ化物の応用は安全である。
- (3) 子ども達のう蝕予防のための公衆衛生的なフッ化物応用プログラムは効果的である。
- (4) フッ化物の応用は国際的に広くすすめられている。

# 歯周病にかかりやすい人とは？

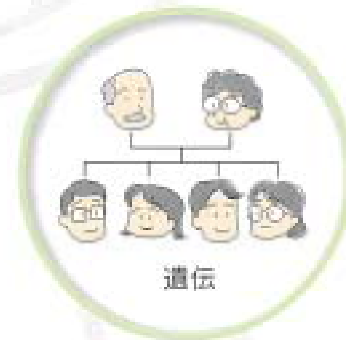
歯周病の原因は細菌ですが、最近では糖尿病などの全身疾患や喫煙などの生活習慣が歯周病を悪化させる因子(リスクファクター)であることがわかってきています。

## 歯周病のリスクファクター

### 局所的因子



### 全身的因子



# 歯周病、全身にも悪影響

右図のように、歯周病が進行すると、歯と歯肉の間に、病的な歯肉溝（歯周ポケット）ができます。

この歯周ポケット内の細菌が、腫れて出血しやすいになっている歯肉内の血管を通して全身に回ったり、あるいは、細菌が直接気管内に入ることにより、全身への悪影響を及ぼすのです。



歯周病菌は、  
さまざまな疾患にかかわっています

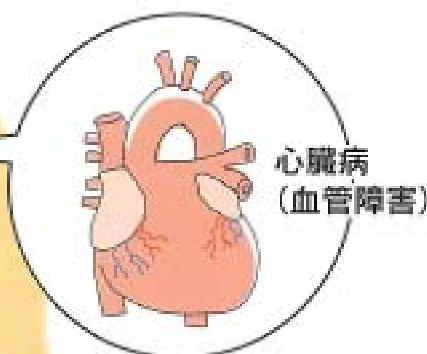


## 肺炎

体力を消耗した患者では、口腔内の細菌を誤嚥すると、肺の中で歯周病菌が増殖して肺炎を起こします。

## 心内膜炎

歯周病菌は付着能力が強く、心内膜に付着し増殖して心内膜炎を引き起こします。



## 動脈硬化

歯周病が関連して、動脈壁を厚くするきっかけを作ります。このため、心筋梗塞が起こる危険性が高くなります。



## 低体重児出産・早産

歯周病菌を撃退する免疫反応として分泌されるサイトカインが羊膜を破壊し、早産の原因になることがあります。



## 糖尿病

歯周病菌への免疫反応として放出されるサイトカインという物質が糖分を細胞内に取り込む役目をするインスリンに作用してその機能を阻害するため、結果として血糖値が上昇し糖尿病を悪化させます。

# 歯周病の自覚症状（セルフチェック）

以下のような症状をひとつでも感じたら歯ぐきの赤信号です。

歯周病は、知らないうちに進行し、症状が進むまでなかなか気がつきにくい病気です。放置しておくと歯がぐらぐらになり、最後には、抜けてしまいます。

おかしいな、と思ったら、早めに歯科医院を受診しましょう。



歯がしみる



歯肉が赤く腫れている



歯を磨くと血が出る



息が臭い



歯垢、歯石がついている



歯と歯の間に食べ物がよくはさまる

## あなたは だいじょうぶ？



歯肉を押すと、血が出ることもある



歯肉に痛みがある



歯がゆれて、ものがかみにくい



歯がのびた感じがする



歯肉がむずがゆい



朝起きたとき、口の中がネバネバする



歯と歯の間がひろがってきた

# 歯周病治療はチームワーク

歯周病は、歯科医師の力だけで治せるものではありません。患者さんも治療に参加し、協力することにより治療が可能になるのです。

## ホームケア(家庭では)

### ★毎日のブラッシング・プラークコントロール

歯周病の最大の原因はプラーク(歯垢)に潜む細菌ですから、その予防には日常のプラークコントロール(歯垢除去)が最も有効な方法です。

### ★かかりつけ歯科医による定期健診

何でも相談できる歯科医、また、定期的にチェックを受けられる歯科医を持てば、歯周病やむし歯を未然に防ぐことができます。

### ★歯周病を悪化させない生活習慣の改善



たばこを吸わない

きちっとした食事をする



ストレスをためない

十分な睡眠をとる

## プロフェッショナルケア(歯科医院では)

### ★P.M.T.C.(Professional Mechanical Tooth Cleaning)

歯科医師や歯科衛生士などによる専門的な口腔内のクリーニングのことをいいます。日常行われているプラークコントロールで取り残されている部分、歯肉の下に隠れているプラーク(歯垢)など患者さんでは取り除くことのできないものに対して専門的な器具などを使用して除去を行います。

PMTCIは、バイオフィルムをはがしとる手段として、最も能率的かつ効果的な方法と考えられています。



### ★スケーリング・ルートプレーニング

自分で歯石を取り除くことはできません。そのため定期的に歯科医院で取り除いてもらう必要があります。(スケーリング)

また、歯の表面をなめらかにして、プラーク(歯垢)をつきにくくします。(ルートプレーニング)

### ★外科処置

症状が進んでしまったときには、手術が必要な場合もあります。



# 元気県ぐんま21

21世紀における県民健康づくり運動における生活習慣の改善（6領域）のひとつに『歯と口の健康』が位置付けられました。

## 【歯の喪失の防止】

### ① 現状

80歳で20本以上の自分の歯を持つ人が少ない  
定期的な歯科健診、歯石除去や歯科保健指導を受ける人が少ない

### ② 望ましい姿（目標）

80歳になっても自分の歯を20本以上残す

### ③ 目標達成のための施策

「8020運動」の推進  
歯を失う原因であるむし歯と歯周病予防の正しい知識の普及啓発  
歯科保健に関する各年代ごとのデータの収集に努め、県民にわかりやすい情報の提供

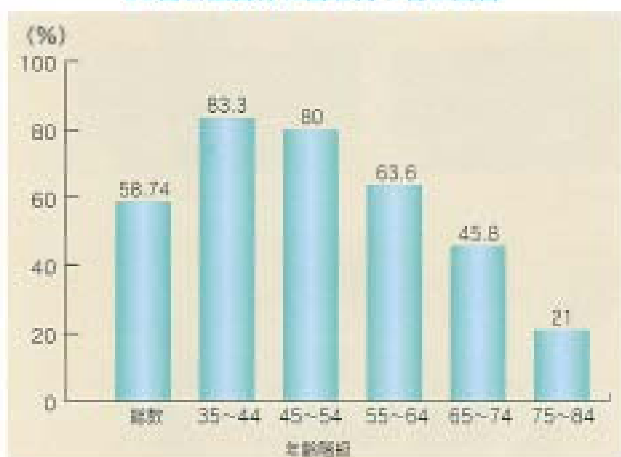
### ④ 県民の行動

かかりつけ歯科医を持ち、定期的な歯科健診、歯科保健指導・予防処置を受ける

### ⑤ 目標指標と目標値

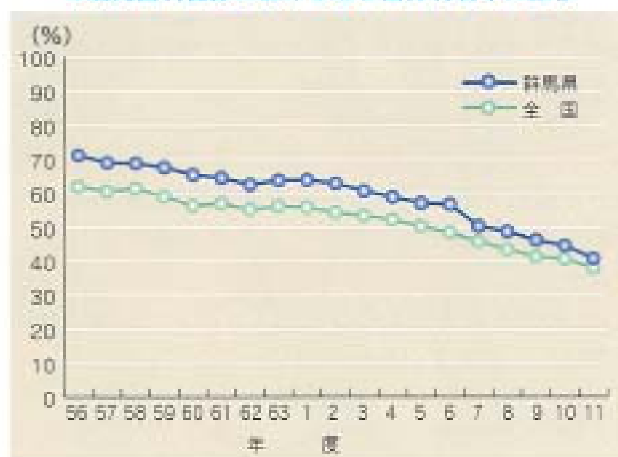
評価指標	現状	目標（平成22年）
80歳で20歯以上持つ人の割合	21.0%	30%以上
60歳で24歯以上持つ人の割合	54.5%	60%以上
定期的な歯科健診を受ける人の割合	7.8%	30%以上
定期的な歯石除去等を受ける人の割合	7.8%	30%以上
失った歯について入れ歯などによる治療が済んでいる人の割合	—	90%以上

20歳以上自分の歯を持つ者の割合



※県成人歯科保健実態調査（平成12年度調査）

3歳児歯科健診におけるむし歯保有者率の推移



※3歳児歯科健診結果（県保健予防課調査）



## 【幼児期】

### ① 現状

3歳児におけるむし歯保有率は、減少が認められるものの全国平均より高い  
3歳児におけるむし歯は都市部で少なく郡部で多い傾向にあり市町村格差が大きい

### ② 望ましい姿（目標）

3歳児のむし歯を減らす

### ③ 目標達成のための施策

市町村等で実施する乳幼児歯科健診においてフッ化物歯面塗布が実施されるよう推進します

### ④ 県民の行動

3歳児までにフッ化物歯面塗布を定期的に受ける

### ⑤ 目標指標と目標値

評価指標	現状	目標値（平成22年）
3歳でむし歯のない人の割合	59.3%	80%以上
3歳までにフッ化物歯面塗布を受けた人の割合	—	70%以上
間食として甘味食品・飲料を1日3回以上飲食する人の割合	—	20%以下

## 【学齢期】

### ① 現状

永久歯の生えそろう12歳の時点でむし歯を持っている人が多い  
学齢期において個別的歯口清掃指導を受けたことのある人が少ない

### ② 望ましい姿（目標）

永久歯萌出直後のむし歯を減らす

### ③ 目標達成のための施策

児童生徒のむし歯や歯周疾患の予防対策を推進します

### ④ 県民の行動

学齢期において個別的歯口清掃指導を受ける  
フッ化物配合歯磨剤の使用やフッ素洗口を利用する  
定期的な予防処置（シーラントなど）を受ける

### ⑤ 目標指標と目標値

評価指標	現状	目標値（平成22年）
12歳で一人平均むし歯数	2.9本	1歯以下
フッ化物配合歯磨剤の使用率	—	90%以上
フッ素洗口をしている人の割合	—	50%以上
過去1年に個別的歯口清掃指導を受けた人	—	30%以上

## 【成人期】

### ① 現状

40、50歳では歯周病を有している人が多い  
 歯間清掃用具を使用している人が少ない  
 喫煙が歯周病に悪いと知っている人が少ない

### ② 望ましい姿（目標）

進行した歯周病の有病者を減らす

### ③ 目標達成のための施策

成人期の歯科健診の機会を増やすため、事業所歯科健診や老人保健事業における歯周疾患検診の導入を推進します

### ④ 県民の行動

定期的な歯石除去、歯科保健指導を受ける  
 歯間清掃用具を使用する

### ⑤ 目標指標と目標値

評価指標	現状	目標値（平成22年）
進行した歯周病を有する人の割合（40歳）	31.2%	22%以下
（50歳）	40.0%	30%以下
歯間部清掃用具を使用する人の割合（40歳）	31.3%	60%以上
（50歳）	30.5%	60%以上
喫煙と歯周病に関する正しい知識	—	100%

## 【高齢期】

### ① 現状

歯周病の進行による露出した歯根面のむし歯が増加傾向にある

### ② 望ましい姿（目標）

歯根面のむし歯予防のためにフッ化物配合歯磨剤の使用や、フッ化物歯面塗布等を受ける  
 要介護者や障害児（者）が訪問による歯科健診や歯科保健指導を受ける  
 失った歯は放置せず、適切な治療（入れ歯等）をして、かむ機能を回復する

### ③ 目標達成のための施策

市町村や保健福祉事務所で実施する要介護者や障害児（者）の訪問口腔衛生指導を推進します

### ④ 県民の行動

歯根面のむし歯予防のためにフッ化物配合歯磨剤の使用やフッ化物歯面塗布等を受ける要介護者  
 や障害児（者）が訪問による歯科健診や歯科保健指導を受ける

### ⑤ 目標指標と目標値

評価指標	現状	目標値（平成22年）
歯周病及び露出した歯根面のむし歯予防のための 予防処置を受ける人の割合	—	30%以上
訪問口腔衛生指導を実施する市町村	38市町村	70市町村
障害児（者）の訪問口腔衛生指導を実施する市町村	7市町村	35市町村

あなたはどれを選びますか？

